

UENO JAZZ INN '11 上野ジャズ・イン

フェスティバル当日の最高気温33.5℃を上回る ホットな体感を与えてくれた豪華なラインナップ

取材：菅野 聖
撮影：松川泰治
写真提供：UENO JAZZ INN事務局(※)

地域密着型ジャズ・フェスティバルを代表する「UENO JAZZ INN '11」が今年も例年どおり東京・上野公園で開催された。25回目を迎えた今回は、多岐にわたる人気のバンドが一堂に会し、観客も立ち見が出るほどの盛況となった。まさに“夏フェス”と呼ぶにふさわしい熱いステージの模様をレポートしよう。

8月6日、東京・上野公園不忍池湖畔にある“水上音楽堂・みずどりのステージ”で「UENO JAZZ INN '11」が開催された。トップを飾ったのは、兵庫県芦屋にある男子校、甲南高校の生徒たちによるビッグバンド“甲南プラスアンサンブル”である。昨年12月に行なわれた「第30回浅草JAZZコンテスト」で見事グランプリを獲得し、今回のオープニング・アクトを務めることとなったわけだが、その嬉しさを体現するかのような「モーメンツ・ノーティス」で演奏がスタート。瑞々しさを炸裂させながら2曲披露したところで、同じく「第30回浅草JAZZコンテスト」ヴォーカル部門グランプリ受賞者の小林ゆうこが登場。彼女は今年の春に開催された「第12回神戸ジャズヴォーカルクイーンコンテスト」でもグランプリを手中に収めている注目のニュー・フェイスで、“甲南プラスアンサンブル”の演奏をバックに「センチメンタル・ジャーニー」を含むスタンダード・ナンバーを4曲披露した。素直で伸びやかな歌唱法は好感度大、今後の活躍にも期待が持てる。再び“甲南プラスアンサンブル”の熱い演奏「エクスプロージョン」で舞台はチェンジ。

カラフルな衣装を纏った“東京ブラスタイル”の女子11人がステージに飛び出すと、いきなりキュートなムードに早変わり。鮮やかにアレンジされた“ドラゴンボール”の主題歌「摩訶不思議アドベンチャー」をはじめ、数々の人気アニメ・ソングやお得意のジブリ・ナンバーをリズムカルに、そして大胆なホーン・サウンドで大放出。人々の視線を意識したフォーメーションも完璧で、笑いを誘う



バトルジャズ・ビッグバンドwith小林桂



木村充輝&梅津和時クアルテット

MCや随所に織り交ぜた客席とのコール&レスポンスのタイミングもバッチリだ。魅せるステージではあるがそれぞれのソロも堂に入り、聴かせる部分はしっかりとアプローチしているのが素晴らしい。入場の際に配布されたうちわを仰ぎながら声援を送っている観客は、女子力の持つパワーにすっかり魅了されていた。

その空気を一転させたのは梅津和時(sax)クアルテットだった。まずは梅津のオリジナル

曲「東北」で口火を切る。この曲は仙台出身の彼が東日本大震災の後に作ったナンバーで、その深い嘆きを彷彿させるカデンツァは激しく、ストレートに胸に響いてきた。さらに井野信義(b)、田中信正(p)、田中徳崇(ds)が加わると、涙を誘うほどの美しいメロディが会場を包み込み、まるで鎮魂歌を聴いているような気分となった。これぞ、名曲、名演。そこへ元・憂歌団のリード・ヴォーカルで現在、さまざまなユニットやソロ活動を精力的に行